

**都道府県における鳥獣の保護及び管理に関する
専門的知見を有する職員の配置状況について（概要）**
（令和2年4月1日現在）

1. 専門的知見を有する職員の配置状況の概要

- ・ 専門的知見を有する職員を配置している都道府県の数
38 都道府県 81%（平成31年度：36 都道府県 77%）
- ・ 1 都道府県当たりの専門的知見を有する職員の平均数
3.8 人（平成31年度 3.4 人）
〔うち常勤職員 2.8 人（平成31年度：2.7 人）〕
〔非常勤職員 1.0 人（平成31年度：0.9 人）〕

	常勤職員		非常勤職員	計
		うち本庁内		
専門的知見を有する職員(A)	132 人 (125 人)	40 人 (35 人)	47 人 (44 人)	179 人 (162 人)
鳥獣行政担当職員(B) (※1、※2)	1,610 人 (1,596 人)	455 人 (451 人)	1,981 人 (2,979 人)	3,677 人 (4,575 人)
(A)/(B)	8.2% (7.8%)	8.8% (7.8%)	2.4% (1.5%)	4.9% (3.5%)

（ ）内は平成31年度

- ※1 鳥獣被害対策など関連部局、公立の調査研究機関（独立行政法人を含む）及び試験場を含む。
- ※2 地方公務員法の改正により、令和2年度から鳥獣保護管理員を特別職非常勤職員又は会計年度任用職員として任用していない都道府県では、鳥獣保護管理員を非常勤の鳥獣行政担当職員として集計に含めていない場合があり、鳥獣行政担当職員は平成31年度より898名の減少となっている。

2. 専門的知見を有する職員を5人以上配置している都道府県

都道府県名	人数
北海道	19人
鳥根県	17人
長野県	15人
兵庫県	14人
栃木県	12人
京都府	8人
福島県、沖縄県	7人
愛知県	6人
神奈川県、静岡県、岡山県	5人

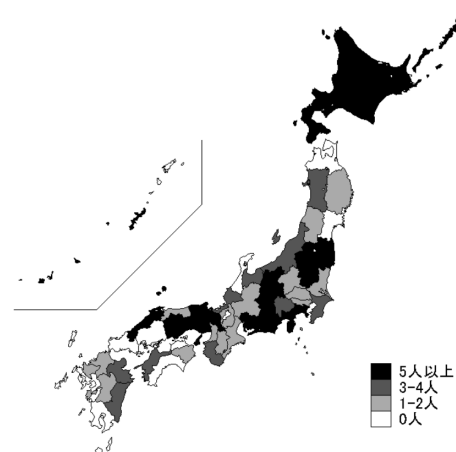


図1 専門的知見を有する職員の配置状況

3. 専門的知見を有する職員 179 人の内訳

専門的職員の要件	内訳（人）※ （割合）
①環境省の人材登録事業（鳥獣保護管理プランナー、鳥獣保護管理捕獲コーディネーター、鳥獣保護管理調査コーディネーター）の登録者	19 人 (10.6%)
②農林水産省の農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーの登録者	22 人 (12.3%)
③環境省が主催する特定計画や鳥獣保護管理に関する研修会（初級編又は上級編）、農林水産省の鳥獣被害対策地域リーダー育成研修（座学研修（一連のすべての講座を含む）又はフィールド実習研修）又は林野庁が主催する森林保護管理（獣害）研修を受講（修了）しており、かつ鳥獣行政の3年以上の実務経験者	34 人 (19.0%)
④大学及び大学院において、鳥獣保護管理に関する学位（博士、修士、学士）を有する者（※鳥獣保護管理に関する論文で学位を取得した者）	59 人 (33.0%)
⑤上記と同等の専門的知見を有すると都道府県知事が認める者（例えば、鳥獣管理士の資格保有者、鳥獣保護管理の研究を専門的に実施している研究者、鳥獣保護管理について各地域で講義や講演を多数実施して、鳥獣保護管理に係る指導の経験が豊富な方、鳥獣保護管理に関する専門的知見を有する者として国や都道府県等の検討会委員を委嘱されている方）	44 人 (24.6%)

※ 複数の要件に該当する者を含む。

（参考）鳥獣の保護及び管理の専門的な知見を有する職員のうち、特定の鳥獣種（イノシシ、ニホンジカ、クマ類、カモシカ、ニホンザル、カワウ）について専門的な知見を有する者

鳥獣種	内訳（人）※ （割合）
イノシシ	22 人 (12.3%)
ニホンジカ	29 人 (16.3%)
クマ類	26 人 (14.5%)
カモシカ	7 人 (3.9%)
ニホンザル	15 人 (8.4%)
カワウ	4 人 (2.2%)

※ 複数の鳥獣種に該当する者を含む。